講義名	原価計算論A				
科目区分	学部フリーゾーン				
担当教員	早川　翔				
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 ４時限	授業形態			
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科／ 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2018年度 人間社会学部 観光学科／				
履修開始年次	２年生	単位数	2	備考	

主題と概要

利益は、利益＝収益－原価の式で表せます。この式から、少ない原価で多くの収益を獲得することが、利益増大につながると言えます。したがって、企業にとって原価をいかに引き下げるかは重要であり、そのためには自社の原価構造を知る手段としての原価計算が必要になります。 本講義では、日商簿記検定2級における工業簿記（原価計算）の範囲、特に個別原価計算に関する内容を学習します。

到達目標

個別原価計算に関する基礎的な理論とCVP分析について理解する。また、日商簿記検定2級における工業簿記の基礎学力を身につけることができます。

提出課題

毎回の講義終了後に、授業内容にもとづいた授業内課題を課します。課題の提出にはスマートフォンやタブレットなどが必要です。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

次回の授業の講義冒頭にてフィードバックを行います。正答率が低い課題に対しては、再度解説を行う場合があります。

評価の基準

毎回の授業内課題の成績（50%）と学期末試験（50%）で評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他

・本講義を受講する前提として簿記に関する基礎的知識(特に仕訳・転記の方法)が必要です。
・原価計算の内容は積み重ねが重要な学問なので、休むと次回以降の内容がわからなくなります。
・授業では計算問題を扱うことがあるため、電卓が必要です。
・ICTを活用した授業内課題を実施するため、スマートフォンやダブレット端末が必要です。

教科書

. 使用しない.

プリント資料及び参考文献

プリント資料
　毎回の講義で使用します。
参考文献
　谷武幸 2012 『エッセンシャル原価計算』　中央経済社

授業計画

第1回 原価計算とは何か
第2回 費目別計算1　材料費1
第3回 費目別計算2　材料費2と労務費1
第4回 費目別計算3　労務費2と経費1
第5回 個別原価計算1　製造間接費の配賦
第6回 個別原価計算2　製造間接費の予定配賦
第7回 前半のまとめ
第8回 個別原価計算1　直接配賦法
第9回 個別原価計算2　相互配賦法
第10回 個別原価計算3　部門費の予定配賦
第11回 本社工場会計
第12回 直接原価計算　CVP分析
第13回 直接原価計算　固変分解
第14回 後半のまとめ
第15回 全体のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

次回の授業までに、授業で扱った問題について独力で淀みなく解けるまで復習する必要がある（4時間程度）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業内課題にてICTを利用します。

実務経験の有無及び活用

備考